

第		16		回					
住	民	の	自	治	-	統	治	研	究
会	ご		あ		ん		な		い

**現地研究会「NPO こえとことばとこころの部屋」(ココルーム)を
たずねて・芸術と西成のまちづくり**

と き:2013年3月9日(土)午後2時から4時

ところ:「NPO こえとことばとこころの部屋」(西成区山王 1-15-11、06-6636-1612)

集合場所・時刻:新今宮駅、JR・南海連絡通路改札口、午後 1 時 45 分(時間厳守)

今回も現地研究会としてココルームの上田さんにお話を伺い、西成・釜ヶ崎の貧困問題が凝縮した地域と社会の問題と、その課題解決対策を引き続き研究します。

前回 2013.2.9 研究会の報告

*** 現地研究会「釜ヶ崎支援機構」沖野さんに聴く - 支援団体と西成のまちづくり ***

西成・釜ヶ崎をテーマに現地研究会・取材を継続し、「中期総括まとめ」で、地域の課題が顕在化し、課題解決に向けた地域の合意形成の可能性が高いなどの議論を行ったが、現場で日々ホームレス対策に取り組んでいる支援機構の沖野さんから話をうかがい、現実問題として西成・釜ヶ崎が抱えている問題の根深さと解決の道筋が容易でないと感じられた。

1) 西成・釜ヶ崎の現状

(1)ホームレス問題＝釜ヶ崎問題ではない。重なるが別個の問題で、労働、家族、地域などから排除された、即ち社会的排除が凝縮した单身男性のまち。(2)社会的に排除された人がかろうじて生きていける社会的資源があり、その為に排除された人が引き寄せられる場所。現在も新たな社会的排除が生み出され、それを吸収しているまち。

2) 支援機構の歴史と事業

(1)労働運動(反失業連絡会)から始まり、路上で死なない為に「屋根と仕事」を確保することを目指し1999年NPO法人化し、高齢者特別清掃事業(以下「特掃」)を受託、その後特掃と夜間宿泊所運営事業を土台にしながらホームレスの変化に対応したさまざまな相談・サポート事業・雇用創出事業などを展開。これらを機構から提案し推し進めてきた。(2)受託事業⇒契約は1年の精算方式、間接経費が認められず運営に余裕がない。(3)受託事業元の大阪府・市・国の動向⇒財政当局の権限が強くなっており、費用対効果では測れない点があるが理解されない。(4)その点も踏まえ西成特区構想の実現も財源問題がネックではないかと。*提供資料リーフ、歴史参照。

3) 地域団体・支援団体との関係

(1)支援団体同士は顔見知りの関係にある。(2)釜ヶ崎の地域構成要素は、①日雇労働者、野宿者関係、②地元住民・町会、簡易宿泊所関係、③行政・警察、④ヤクザ関係で、どれかだけが街全体を包括できる地域ではない。(3)(仮称)萩之茶屋まちづくり拡大会議の参加団体で、地域の問題を同じテーブルで議論できる。釜ヶ崎のまち再生フォーラムは懇談、議論の場と理解。

4) 西成特区構想有識者座談会報告

(1)活動団体の話を聴きまとめプランを出したことは評価している。(2)釜ヶ崎地域の実状を反映しきれていない点がある。(3)行政側を拘束し、規定させる力を持っているかは疑問、理由は財源の担保がない。

5) 今後のまちづくりの方向

(1)それぞれに応じて働くことができる機能と、様々な生活困難要因を抱えてやって来ざるを得ない人たちを包括的に支えることができる機能を併せ持つ必要がある。(2)高齢化による認知症が増加していく、看護などの高齢化に合わせたサポートが求められる。街全体でサポーターハウスのような機能を持つ地域に。

【まとめ】西成特区構想、有識者座談会報告、再生フォーラム、まちづくり拡大会議などの新しい動きに注目してきたが、沖野さんから西成・釜ヶ崎の歴史と現状を聴き、問題の多様さと課題解決の現実を再認識する必要を感じた。

当研究会は自主研究会ですので、参加者には資料代1回＝500円の負担の協力をお願いしています。

主催＝住民の自治・統治研究会 (06-6354-7220)